

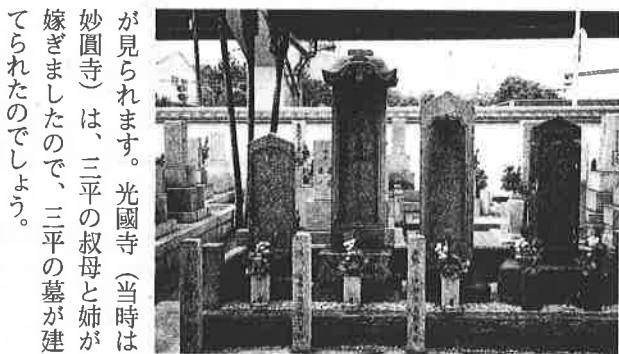


「忠臣蔵三百年」48番目の義士 萱野三平重實 ⑩

3カ所に残る三平の墓所

父重利は、自刃した三平の死の本当の理由が世間に知れ渡つたら、仇討ちを計画している赤穂浪士たちに迷惑がかかると考え、死因を病死として偽り、亡骸を近くの山へひそかに埋葬したと伝えられています。萱野にある三平の墓には、自刃から39年後の「元文5年」の銘がありますので父が建てたものではなく、墓石には「嗣子長好、孝孫重好、建」とあります。三平の子「長好」と孫「重好」が墓を建てたと読み取れますが、三平に子や孫がいたという事実はありません。それでは、「長好」「重好」とはだれなのでしょう。重好は、萱野家の系譜を見れば三平の兄重通の孫であることがわかりますが、長好の名は、萱野家の系譜にはありません。

しかし、三平の姉「おとら」が嫁いだ伊丹の北河原家の系譜に、「長好」の名があります。おとらの夫好昌は、俳諧、連歌、茶道などに名を残す風流人でした。好昌とおとらの間には1女4男の子どもが生まれましたが、その三男「助三郎長好」が、三平の子を名乗り墓の建立に力を尽くしました。酒造家であった長好は、この墓石を建てるにあたり、墓石に刻む文章を儒学者「堀南湖」に依頼するのと同時に、正面の「萱野三平墓」の5文字を書家として有名な僧「百拙」に託しています。



が見られます。光國寺（当時は妙圓寺）は、三平の叔母と姉が嫁ぎましたので、三平の墓が建てられたでしょう。

それでは、三平の墓石は、死後39年間は無かったのでしょうか。豊中市内に2基の三平の墓がありますので、ご紹介したいと思います。左の写真は、光國寺（豊中市庄本町）にある墓石と記念碑です。大きな記念碑は昭和41年に建立されたもので、正面に戒名が刻まれた小さな墓石の側面には、「元禄十五年正月十四日」という三平の没年月日

3基の墓のいずれに三平が眠っているのかは、定かではありませんが、3基の墓から共通してうかがえることは、三平の死を志なけば仇討ちに加わらなかつた裏切り者とするのではなく、主君に対する忠義による殉死と認め、同時に父に対する孝行も果たしたその潔さを誇りとして

いることです。